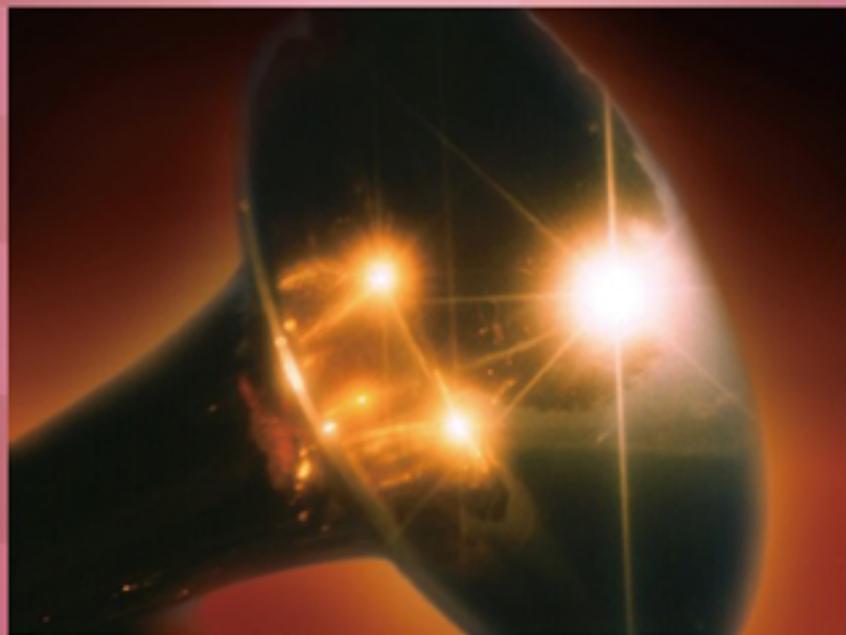


現代の真理シリーズ No.1

PRESENT TRUTH BOOKLET SERIES NO.1

再臨運動に対する 神の目的



現代の真理シリーズ No. 1

再臨運動に対する神の目的

金城 重博

目次

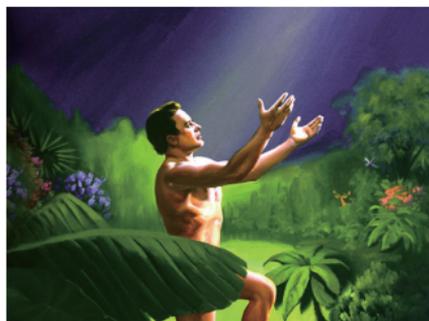
Contents

I. 人間が創造された目的	2
サタンの主張：	3
引用文：	4
人間は何のために造られたのか？	8
旧約時代は失敗した。	11
II. キリストは受肉と死によって神の律法 御品性を擁護された	12
旧約聖書に最後の時代は象徴的に 何と描写されているか？	19
覚えよう！	28

神は御自分の民を通して何を達成しようとしておられるか？ その知的な理由も持たずに再臨運動に加わる一アドベンチストになっている一可能性が十分にある。ある団体、組織に人が加わる時、多くの人、参加している知的な理由を持たない場合がよくある。若い人はなぜ戦争に、また、ある運動に参加しているのか分からずに群集心理で行動していることがよくある。ストライキをなぜしているのか、知的な理由をあげることのできない学生がよくいる。我々は、なぜ再臨運動に一アドベンチスト一に属しているのか、知的な理由を持っているだろうか。

I. 人間が創造された目的

再臨運動に対する神の目的を知るためには、神が人を創造された目的を考えなければならない。それは、人間を創造する神の永遠の目的と同じである。



人間は、ルシファー（サタン）が天から追放された直後に創造された（生き残こる人々 30, 31）。人間は、①サタンの主張をうち破り、②神の政府、御名の擁護のための武器として造られたのである。

大争闘が天で始まった。神とサタンの大争闘は全宇宙の問題となった。その戦いの内容はどうということだったのであろうか。

サタンの主張：

1. 神の律法は不完全であるから、変更の必要がある。被造物の幸福と自由のためではない。ゆえに神の律法は不要である。
2. 律法を守ることは不可能である。(あけぼの上 85、希望上 9)

「自己否定は神にとって不可能であり、故に、それは人類家族にとって重要ではない。」(7BC 974)

3. 義とあわれみは両立しない。

(大争闘下 241、あけぼの上 1 章を見よ)

「大争闘は、最初から神の律法に関して戦われたのである。サタンは、神は不正で、神の律法は不完全であるから、宇宙の幸

福のためにそれを変更することが必要であることを証明しようとしてきた。彼は、律法を攻撃してその創始者の権威をくつがえそうとしていた。この争闘において、神の律法が不完全なもので、変更が必要であるか、それとも、完全で不変なものであるかが示されるのであった。」（あけぼの上 62）

- 1) サタンが神の律法を攻撃するのは、
- 2) 創始者の権威をくつがえすのが目的であった。

引用文：

「大争闘の始めに、サタンは、神の律法は従うことのできないものである、義と憐れみは両立しない、もし律法を破ったら罪人がゆるされることは不可能だと宣言した。すべての罪は罰を受けねばならない、もし神が罪の罰を免除されるなら、神は

真実と義の神ではないと、サタンは主張した。人類が神の律法を破り、神のみこころに反抗したとき、サタンは狂喜した。律法は従うことのできないものだということがわかった、人類はゆるしを得ることはできないのだと、サタンは断言した。サタンは、自分が反逆したあと、天から追放されたので、人類も永久に神の恩恵からしめ出されるべきであると要求した。神は義であるなら、罪人にあわれみを示すことはできないはずだと、彼は言い張った。」(希望下 287)

「神の愛は、あわれみのうちにばかりでなく義のうちにもあらわされた。義は神のみ座の基礎であり、神の愛の実である。あわれみを真実と義から引き離そうとするのがサタンの意図であった。彼は神の律法の義が平和の敵であることを証明しようと努力した。しかしキリストは、神のご計画のうちにあってこの両者は離す

ことができないほど密接に結合しており、一方がなければ他方は存在し得ないことを示しておられる。『いつくしみと、まこととは共に会い、義と平和とは互に口づけ』する（詩篇 85:10）。」（希望下 289）

「彼（サタン）は…創造主はすべての者に自己犠牲を強制しながらご自分は克己も犠牲もしておられないと主張してきた。」（大争闘下 240）

「サタンは、あわれみが義を滅ぼし、キリストの死が天父の律法を廃止したと宣言した。」（希望下 289）

すべてのものは「御子（キリスト）によって造られ、御子のために造られた。」（コロサイ 1:16）

だからサタンはキリストに嫉妬し、憎み、殺そうとしたのである。

「神が天使たちに律法を課するのは正しくないとやった。また、被造物に従順と服従を求めて、神はただ自己を高めようとしておられるのだと言った。したがって、天の住民と、すべての世界の前に、神の統治は正しく、神の律法は完全であることを示す必要があった。」（あけぼの上14）

「そこで、すべての世界の住民はもちろん、天の住民の前に、神の統治が正しく、神の律法が完全であることが実証されねばならなかった。」（大争闘下 235）

神はルシファーから大変な挑戦を受けたのである。神はサタンの挑戦に答える事ができなければ、全宇宙が危機にさらされるのである。

「危機にさらされたのは、1つの世界の関心事だけではなかった。この地球が戦場であったが、戦いの結果によって、神の

造られたすべての世界が影響されるのであった。」 (ST8-27,1902)

神は、御自分の名、政府、愛の律法を擁護する何らかの方法を必要とされた。神御自身の正しいことを証明する必要があった。「神みずからが義とな」る方法は何か？ (ローマ 3 : 26)

神はその大問題を解決するために人間をお造りになったのである。

人間は何のために造られたのか？

神は、御自分の擁護のために人を造られたのである。神の最初からの目的は、

「わたしは彼らを我が栄光のために創造し、…。」 (イザヤ 43 : 7)

「神御自身の栄光のために人を造られたのである。」 (ST5-29,1901)

「我々は…神の栄光をほめたたえるために

生きるよう、あらかじめ定められ、運命づけられた。」(エペソ 1:12 [RSV])

神は、我々を必要とされたので我々を造られたのである！

「我々は必要とされたから存在するようになったのである。もし我々が誤った側に、敵の側につくならば、我々の創造主の計画にそわないことになる。」(ST4-22,1903)

教会は、神のご計画を成し遂げるための人間の集まりである。

パウロはエペソ 3:10、11 に、①全宇宙に、②教会を通して、③神の多種多様な知恵一品性を表すことが、④神の永遠の目的であったと叫んだ。あなたは神にとって欠くことのできない存在！

考えて見て下さい！何と高貴な運命が人間にゆだねられていることでしょう！

何と崇高な使命、目的が与えられていること
でしょう！

「我々にかたどって人を造り…」これは、サ
タンの挑戦に答えることであった。人は、神の
武器として造られた。人間によって敵を滅ぼし、
全宇宙に神の政府を擁護するのであった。全宇
宙の永遠の安全は、これにかかっていた。

「神は、人間をすぐれた存在者として造ら
れた。人間だけが神のかたちに造られた。
神の性質にあずかり得るものとして、ま
た、創造主と協力して、神の御計画を実
行し得るものとして造られた。」(RH2-
11,1902)

「人間は、神の創造の傑作で、神のかたち
に造られ、神の写しになるように計画さ
れた。」(RH11-25,1895)

「人間は…新しい、特異な地位で、神のか
たちに造られた。」(RH6-25,1908)

「この惑星を加えることによって、神は創造の働きを完成なされた。」(Bible Echo 1-1,1888)

旧約時代は失敗した。

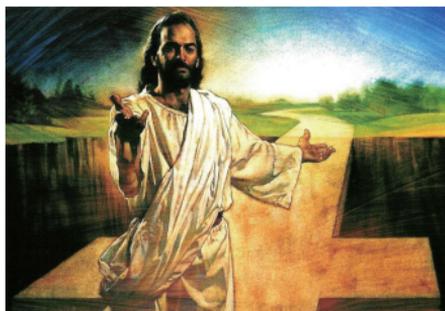
個人的に神に忠誠をつくして神の律法を擁護した者はいつの時代でもわずかながらいた。しかし、共同体、教会としてイスラエルは失敗した。

しかし、神の永遠の計画は変わらない。

神は6千年も、最初の御計画を変えられなかった。時々失敗のように見えたこともあったが、最初の目的は変えられない。遂行されるのである。

Ⅱ. キリストは受肉と死によって 神の律法、御品性を擁護された

ローマ 5:10「もし、わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死によって神との和解を受けた



とすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう。」

イザヤ 42:21 「主はおのれの義のために、その教を大いなるものとし、かつ光栄あるものとすることを喜ばれた。」

「律法を拡大する、magnify the law 欽定訳」
ために来られた。

マタイ 5：17 「わたしが律法や預言者を
廃するためにきた、と思っ**て**はならない。
廃するためではなく、成就するためにき
たのである。」（希望中 13 参照）

キリストは、人類の罪の刑罰を受け、身代わ
りとして死ぬためにだけ来られたのではなかつ
た。それだけを強調して、キリストの罪のない
生涯の模範の重要性を説かないのは、福音では
ない。

キリストが人となられたのは、人類のため
に身代わりとなって死ぬためばかりではなかつ
た。

「キリストはサタンの主張が誤りであるこ
とを証明するためにおいでになった。人
の子として、キリストは神に対する忠誠
を保たれるのであった。そのことによっ
て、サタンは人類を完全に支配していな
いこと、世に対する彼の主張はうそであ
ることが示されるのであった。」（希望上

121)

「キリストが人間の罪の刑罰を負われた事実そのものが、すべて造られたものに対して、①律法が不変であること、②神は正しく、あわれみ深く、③自己を否定する方であること、④神の政府の統治には、無限の公平とあわれみが結合していることを大いに証明して、あまりあるのである。」(あけぼの上 64) [詩篇 85:10、89:14 参照]

「この世界で長い間継続された大きな戦いは、ここに勝敗が決し、キリストが勝利者であられた。彼の死は、父と御子とが人間に対して十分な愛をもち、⑤自己否定と犠牲の精神を表わされるかどうかという疑問に答えた。」(あけぼの上 63)

⑥「イエスの一生は、われわれもまた神の律法に従うことができることを証明している。」(希望上 9)

そして今や、神が常に成そうとしておられることを、ついに御自分の民の中に、また、御自分の民を通して成就される時が来たのである。

「もう時がない。第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者達にお告げになったとおり、神の奥義は成就される。」（黙示録 10：6,7）

「この奥義は、あなたがたのうちにありますキリストであり、栄光の望みである。」（コロサイ 1：27）

「義を知る者よ、心のうちにわが律法をたもつ者よ、わたしに聞け。人のそしりを恐れてはならない、彼らのののしりに驚いてはならない。」（イザヤ 51：7）

「しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にしるす。わたし

は彼らの神となり、彼らはわたしの民となると主は言われる。」(エレミヤ 31 : 33、ヘブル 8 章、10 章)

これは「新しい契約」と言われる。(エレミヤ 31 : 31)

「真理と誤謬の最後の大争闘は、長い間続いてきた神の律法に関する論争の最後の戦いにほかならない。われわれは今や、この戦い、すなわち、人のおきてと主の戒めとの間の、また、聖書の宗教と作り話や言い伝えの宗教との間の、戦いに入っているのである。」(大争闘下 344)

「終わりの時に」サタンは「神の戒めを守る」者に向かって最後の戦いをいどんでくる。(黙示録 12 : 17)

「終わりの時に」神は、「あらゆる国民、部族、国語、民族」から「神の戒めを守り、イエスの信仰を守る」聖徒たちをお持ちになる。

「したがって、天の住民と、すべての世界の前に、神の統治は正しく、神の律法は完全であることを示す（デモンストレーション）必要があった。」（あけぼの上 14）

あがないの計画には：①人類の救済、②全宇宙に対する神の御品性の擁護が含まれている。（あけぼの上 61、大争闘下 241）

天は、セブンスデー・アドベンチストに期待し、待っている！

「全天は、神の律法（品性）は聖にして、正しく、良いものであることを擁護するのを聞こうと待っている。この働きをする者はどこにいるだろうか。神は、御自分の民が、神の御計画と律法にさらに深い洞察を得るように召しておられる。」（RH4-16,1901）

「ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ち続ける聖徒の忍耐がある。」（黙示録 14：12）

最後の神の民もそれを証明し、サタンに勝利し、神に栄光を帰す！

「教会は、キリストの恵みの富の倉庫である。教会を通して、ついにはもろもろの支配、権威に対しても神の愛を最終的に、完全に表わすのである。」(Y17-13,1893)

ついに、最後の時代に 144,000 人がキリストの美しい、調和のある品性を表すのである。一人ひとりはそのグループに入れる。我々のすべてのものが必要とされている。「我々が存在するようになったのは必要だからである」。144,000 は象徴的なものと信じる。

彼らは「初穂」と言われている。地上歴史において初めて、民として完全な品性に到達するグループである。「魂の中に神の恵みの働きが完成され、聖霊によって神のみ像が品性に完成される」グループである (TM506)。この初穂と言われるグループが産出されると大収穫がな

される。彼らの品性は成熟を体験する。天に仲保者なくして生きる。生きていて主を迎えるグループである。

旧約聖書に最後の時代は象徴的に何と描写されているか？

1. ゼカ 12 : 2, 3—エルサレムをすべての民に対して重い石とする。

最後の戦いにおいて国々を打ちくだく、人手によらず切りだされた石である。(ダニエル 2 章)

はじめに人間はちりからつくられた。ちりに熱が加えられて石になるように、人間は、圧力や試練によって精錬されて国々をうちくだく重い石とされる。

キリストはご自分の民を通してサタンの王国をうちやぶる。(黙示録 2 : 27)

2. イザヤ 41:14-16—イスラエルは虫に等しいものと言われているが、主は新しい打穀機とされる。

この表現はダニエル 2 章と同じ。虫は最もいやしい、無用なものと思われる。しかし、神はこのような虫にひとしい民を「新しい打穀機とする」と言われる。それは収穫のためである。最後の大収穫をする機械となる。しかも「新しい」と言われる。

昔の方法で農耕はなされない。次々に新しい機械で、大規模な働きがなされる。世界の人口は、恐ろしい勢いで増加している。福音宣伝は「新しい」「神御自身の方法で」「義をもってすみやかに終わる」のである。後の雨によって、「教会は光と義の完全な武装をして、最後の働きに入るのである」(TM17)

最後の働きは昔ながらのくわで働くのではない。近代農業は耕運機、トラクター、コンボ、ブルトーザですみやかに働きが

なされるように、最後の働きは聖霊、後の雨によって、すみやかに終わる！

3. ゼカリヤ 10:1～5(特に 3 節)一軍馬にする。

黙示録 19:11 → 白い軍馬に乗って戦われる方はイエスである。いつ、主は御自分の馬を持たれるであろうか。後の雨に、神の民が応答した時である。

4. 雅歌 6:10一軍隊のようになる。

軍隊の目的は戦うことにある。ヨエル 2:1-11 では、後の雨を受けた神の民が強い軍隊として描かれている。

「地上が、黙示録 18 章の天使の栄光によって明るくされる時、宗教的要素、善と悪は眠りからさめる。そして、生ける神の軍隊が勝利するのである。」(7BC983)

まもなく出陣の合図が与えられる。旗を立てた軍勢はどこに待機しているだろうか？

5. オバデヤ 17, 18、ゼカリヤ 12:6—火のよ
うになる。

み業は「山火事のような早さで」「いなずまのごとく」短期間に終わると言われている。

聖霊は、彼らに栄光を与える。モーセのように栄光によって輝く！ 悪天使でさえおののく。

「聖霊の贈物が豊かに、十分に、完全に教会に注がれ、火の壁となって教会を囲む。陰府の力も打ち勝つことはできない。彼らの、汚れのない、純潔な、しみもない完全さをごらんになって、キリストはご自分の苦しみ、屈辱、愛の報いとしての民をごらんになり、すべての栄光が輝く大中心のキリストの栄光の補遺（追加）としてごらんになる。」(TM18)

6. ゼカリヤ 9：12, 13—望みをいだく捕われ人、イスラエルは、戦いの時の弓、矢、剣とされる。

7. 聖所の奉仕においては、レビ 16：21—「fitman」定めておいた人と言われている。

イスラエルの罪が除去された後、罪はアザゼルの山羊に告白されて負わせられる。そして定められた人の手によって、人里離れた所に連れていかれ、二度と戻ることのないようにされた。キリストが、民の心から罪を除去されて、聖霊に満たされた民は印される。印された民（144,000人）を通して神の敵を引っぱっていく。つまり、支配するように民を使われるのである。彼らがサタンを引っぱっていくのである。彼らは自分自身を制し、自我に勝利したので、サタンを支配する資格が与えられる。サタンは、神の民に罪を犯させて逃げ口上をもうけようと苦闘する。しかし、できない。

聖所の奉仕を通して、神がどのように罪を処理して、ついに人をもとの純潔さに回復し、イエスのご品性を擁護し、サタンの挑戦に答えるかを教えている。

「聖所の清め」によって、それが成就する。我々は裁きの時に住んでいる。最後のあがないの日に住んでいるのである。



これが、神が再臨運動を起こされた理由である！！ 単なる一教派ではない！！

- 1) 144,000人を通して神の愛の律法、ご品性を擁護し、啓示するためである。

- 2) 神の民を重い石とし、サタンの原則を打ち破るためである。
- 3) 新しい打穀機、軍馬、軍隊、火、弓、矢、剣、定められた人としてサタンの主張を破るためである。

大いなる挑戦がなされている。「だれがこの獣と戦うことができようか？」（黙示録 13:4）。大敵ゴリアテの叫びである。相手—法王教、背教プロテスタント、心霊術（黙示録 16）—は戦う用意ができています。我々はどうか。ダビデはどこにいるのだろうか？ 審判者、神は日本相撲のように息が合うのを待っておられる。

まもなく、神は永遠の目的を成就なさる！
再臨運動に属することは何という特権であろうか！

4) キリストはご自分の体、民に頼っておられる。あなたに！！

なぜか？ それ以外にサタンの挑戦に答える方法はないのだ。それ以外にご自分の品性＝愛、義とあわれみを表現する方法はないのだ。なぜ、そんなに頼っておられるのか？ 教会に！

それは教会を愛しておられるからである。愛の存在する所に信頼が存在するからだ。我々なしに、生きていけないと思うほど愛しておられる。民がいなければ、全天は、危機にさらされる。

「イエスは、わたし達が滅びるようであるなら、天を望ましい場所とお考えにならなかった。」(ミニストリー 76)

おお！ それほど我々に頼っておられるのか！ それほど我々を愛しておられるのか！

その愛を我々が仰ぐ時、我々を通してご自分の栄光を表わそうと待っておられることを見る時、どれほど我々に頼っておられるかを知る時
…

その時、我々は彼の愛に神の民の共同体として応答するのである！

- 1) 雅歌 2 : 7—宗教改革は完全な覚醒ではなかった。
- 2) 雅歌 3 : 5—再臨運動も完全な覚醒に至っていない。
- 3) 雅歌 8 : 4—ラオデキヤは応答するのだ！最後の教会はラオデキヤと表現されるが、必ず 100% 応答し 144,000 としてキリストのご品性を完全に反映する。

我々が主を愛する時にのみ、我々は主に信頼するのだ！我々は義とされるために彼に頼るのである！主も「自らを義とされる」ために我々に頼っておられる！

覚えよう！

我々は、自分の救いのために、再臨運動に加わっていることが第一に重要なことであろうか。そうではなくて、この大運動、最後の運動に我々が召されたのはイエスご自身のためである！ 自己中心的な救いの考えではなく、イエス中心的な救いの考え方をしよう！

イエスは一人一人を必要とされるのだ。「あの人生まれつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか？ 本人ですか。それとも両親ですか」と議論する時ではない。不利な立場に置かれている人であれば、それだけ神の御業、神の栄光があらわれるのである。

「我々が存在するようになったのは、必要とされているからである。」(ST4-22、1903)

岩橋武夫は、大学在学中に失明した。自殺寸前、母に見つかる。「生きていて、親、兄弟に迷惑をかけたくない」…「親のために生きてく

れ」。再起し、妹と二人で大学の勉強をし、卒業。その後、結婚し渡米。哲学、神学の博士号を取って帰国。歓迎会の席上で、あらゆる賞賛を受けた後、「世の中で最も幸福な人はだれか。世の数々の不幸を乗り越えた人である。世の中で本当に喜ぶ事のできる人はだれか。涙の味を知った人である。世の中で最も強い人はだれか。自分の弱さを知っている人である」と言った。

「なぜ主はかくも我を愛し、カルバリ丘の上に、死にたまいし！」（勝利の歌 1 - 91）

「人は何者なので、これをみ心にとめられるのですか。人の子は何者なので、これを顧みられるのですか。」（詩篇 8 : 4）

もっと詳しく知りたい方のために...



“現代の真理”

A5版 168頁

800円

この本を正しく研究するなら、再臨信徒の困惑を整理し、魂の飢えを満たす。終末事件の研究から、今がその時であることを知る。さまざまな教理の風に吹きまわされないために、正しく理解する必要がある。

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881

contact@srministry.com

www.srministry.com